

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ながよ
(ユニット名)	2階 ゆとりの家
所在地 (県・市町村名)	長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷592-1
記入者名 (管理者)	井手 真理子
記入日	平成 21年 1月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	右記の5つの基本方針を実践へつなげ、『安定と軽減と穏やかな生活』という運営理念を実現できるよう日々努めている。	<input type="checkbox"/> ①人としての尊厳を重視②ゆったりと楽しい家庭的な雰囲気作り③ささえ愛で、暮らしの喜びと自信④いつも同じ、なじみの環境⑤私たちは、グループ内で役割を持ち、適切な介護の継続と適切な受診及び利用者が穏やかで普通の日常生活が維持できるよう援助します。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念のもと、日々の援助に取り組んでいる。2階ユニットの理念である『ゆったりと楽しい家庭的な雰囲気作り』を職員が共有し、利用者がゆったりとした雰囲気の中で過ごせるよう努めている。	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を開き、グループホームの役割や理念等を、家族や地域の方、行政に理解していただけるよう努めている。また、家族には入居時に理念についても説明を行っている。また各ユニットの玄関に理念を掲げ、多くの方の目に触れるようにしている。	<input type="checkbox"/>
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方と会った時には、挨拶を交わすように気をつけている。利用者と近くのスーパーに買い物に行くと、お互いに顔なじみになっており、交流の場面ともなっている。	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	長与保育園児の定期的なホームへの訪問(七夕・敬老の日等)や、保育園の運動会を観戦に行くなど交流を図っている。また、長与小学校の体験学習を受け入れている。	<input checked="" type="checkbox"/> 地域の方との交流を深めるため、ホームでも様々な行事を行い、老人会や自治会・児童館の子ども達等との交流の場を設けたい。ホームにも気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築きたい。

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在は、利用者への支援に止まっている。面会に来る地域の方や、買い物などで外に出た時に施設の事を尋ねられる事がある。グループホームについての話をしたり、福祉関係の質問があれば、分かる範囲で答えている。</p>	○	<p>地域の方が気軽に立ち寄りやすいよう、施設の1階に福祉相談室を設け、運営者が中心となり、様々な相談にのっていききたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員がそれぞれ自己評価に取り組み、その結果を集計し改善すべき点や現状の把握につなげている。さらに、評価を活かして今後の目標や具体的な改善策を話し合っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホーム全体の施設要覧を作成し、家族や地域の方・行政の方へサービスの状況や評価への取組状況について、報告・話し合いを行っている。また、会議で挙げられた意見を今後のサービス向上のために活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設と役場が隣接しているため、市町村担当者へ相談に行くこともある。また、介護保険の更新申請も、直接役場窓口を持って行き話をする機会を作っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、2階ユニットでは利用している方はいないが、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を学ぶため、機会があれば研修等参加するようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について正しく理解し、虐待を防止できるよう、常々管理者・職員全員で考える機会を作っている。新聞等で虐待の記事等があれば、全階に回覧するなど虐待の防止に取り組んでいる。</p>	○	<p>職員のストレスによる虐待防止のため、運営者の提案で『リフレッシュ休暇』制度を導入している。1年以上勤務しており希望する職員は年に1回(7日間連続)のリフレッシュ休暇をとることができる。</p>

グループホームながよ ゆとりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約にいたるまでに、利用者または家族と話し合いを重ねることで、不安や疑問が解消されるよう努めている。その中で、家族に理解・納得していただけるよう説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重度の認知症を抱えており、意見等を表出することが困難である利用者が多い。利用者とは接する時には、常に利用者が何を感じているか考えている。また、利用者からの意見等には耳を傾け援助に活かすよう努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度、利用者の日頃の様子やエピソードなどを『連絡メモ』として、職員が書いた手紙を家族に送っている。金銭管理や病院受診の内容なども手紙に加えている。また、遠方で面会が困難な家族にも定期的に電話をかけ、近況報告を行っている。</p>	<p>○ 『連絡メモ』と一緒に写真も同封し、利用者の表情を届けている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内の相談・苦情の窓口や、公的窓口を各ユニット玄関に掲示している。また、家族が面会に来られた際は、家族が職員に話しかけやすい環境作りを心がけている。また、家族同士の会話も出来るよう配慮している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度、各ユニットでミーティングを行っている。運営者や管理者も参加し、職員の意見を聞く機会としている。また、職員が運営者や管理者を直接訪ねて行きやすいようになっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>病院受診や行事など、考慮して勤務表を作成している。救急の病院受診等の状況に応じ、職員の了解を得た上で勤務の変更・調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員が馴染みの関係を保てるよう、異動は最小限にとどめている。利用者の中には、特定の職員を嫁や息子と思っている方がおり、異動や離職の際には十分に気を配っている。</p>	

グループホームながよ ゆとりの家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に1度、ホーム全体で勉強会を行っている。課題・事例発表を担当職員が資料から準備を行い、発表する。また、外部の研修会への積極的な参加・資格の取得などを促している。また、新人職員には職員が1対1で付き、安心して援助に取り組んでいけるようバックアップしていくよう努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月に1度のホームの勉強会に他事業所の方を招き、交流を図ることもある。外部の様々な勉強会にも積極的に参加し、交流の機会としている。また、利用者が他施設へ行かれた際には、職員が利用者を訪ねることがあるため、他施設の見学の機会ともなっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減のため、運営者の提案で『リフレッシュ休暇』制度を導入している。1年以上勤務しており希望する職員は年に1回(7日間連続)のリフレッシュ休暇をとることができる。また、定期的にホーム全体でボーリング大会など開催している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者や各リーダーが、職員一人ひとりの努力や様子などを運営者に報告しており、運営者は状況を把握している。必要に応じ、運営者と職員の話し合いの場を設け、職員の意欲の向上へとつなげている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用相談があれば、まず現在困っていることや施設に期待する事などを聴き、グループホームの利用を含めて今後の方向性を話し合うようにしている。面接は必要に応じ、回数を重ね本人の思いを受け止めることが出来るよう、努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用相談があれば、まず現在困っていることや施設に期待する事などを聴き、グループホームの利用を含めて今後の方向性を話し合うようにしている。面接は必要に応じ、回数を重ね本人の思いを受け止めることが出来るよう、努めている。また、家族の思いも大事にしている。</p>	

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、「その時」の本人や家族の状況・意向を十分に受け止め、グループホームの利用が適切なのか見極める。場合によっては、他の施設の利用を勧める場合・紹介を行うこともある。利用者にとって最善と思われる対応を行うよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の希望に応じ、入居を確定する前に宿泊することも可能である。また、入居後も、夜は自宅に戻ったり、定期的に自宅へ泊まったりしながら、徐々にグループホームでの生活に慣れていただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、介護者と被介護者という関係ではなく、共に生活し、支えあっていく関係という事を日々感じている。人生の先輩である利用者から、料理や生活の知恵を教わっていく若手職員もおり、利用者の喜びにつながっている光景もみられる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は、利用者を共に支えていく関係である。また、職員は家族が利用者と共に過ごす時間を楽しめるよう支援する役割も担っている。家族の面会の際には、利用者の日頃の状況やエピソードなど伝えるようにしている。また要望などがあれば、話がしやすいよう環境作りにも気を配っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面接時や日々の会話の中から、利用者と家族の関係を理解できるよう傾聴し、本人だけでなく、家族の思いも理解できるよう努める。ホームでの行事への参加や面会のサポートなど、利用者と家族が共に過ごす時間を大切にと考え支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の行きつけの美容室への通院の支援や、近所の方が他階へ入居しているため、遊びに行き交流を続けている。また、遠方から入居している利用者についても、本人の体調をみながら、定期的な帰省をサポートしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	体力面の問題などから自室にて過ごす利用者もいるが、日中は出来るだけリビングにて過ごしてもらい、お互いに馴染みの顔となるよう支援している。利用者同士の関係に配慮しながら、無理なく共同生活が送れるよう環境作りにも配慮している。自室で休憩する時間も大切にしている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が退所・転居となった場合でも、職員が自然と面会に行き、利用者本人や家族との交流が継続されている。また、入院の必要性等により退所となった場合でも、今後の相談に乗ったりしながら家族の精神的サポートが出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりや、家族から十分に話を聴き、一人ひとりの思いを感じ取ることが出来るように努力している。職員間でも、利用者に関する会話をもち、職員皆で考え援助につなげている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接や、家族からアセスメントシートに記入してもらい、生活歴等の把握へとつなげている。また、グループホームで共に生活する中で理解を深めていけるよう努めている。また、入居以前に利用したサービスや施設等があれば、相談を行ったり提供書を頂くこともある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活に目を向け、支援が出来るよう心がけている。食事や排泄だけでなく、本人の言動や状態など全職員が把握出来るよう、個人日誌に詳細に書きとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で、介護計画を見直し、実践に繋げる事が出来るよう具体的な支援計画を立てるよう努めている。また、本人の希望・家族の希望を取り入れた介護計画となるよう作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。退院後や本人の心身状態に変化があった場合には、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に取り入れている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子は、個人日誌に出来る限り詳細に記録している。職員と利用者のやりとりや、利用者の表情・身体的変化など記録に残しておくことで、情報の共有につながる。援助に関して良かった例・悪かった例など見直すことが出来、実践に活かすよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	趣味がカラオケの利用者がいるため、1階にあるデイサービスを利用することもある。デイサービスの利用者との交流の機会にもなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者との交流がある民生委員が、定期的に面会に来られている。ボランティアも積極的に受け入れている。年に2回の消防訓練の際は、消防の方にも参加してもらい、助言をいただいている。また、小中学校の体験学習の受け入れや、大学等の実習の受け入れも行っている。	○	グループホームで行っている勉強会に、大学の教授にも参加していただき、助言を頂き支援につなげている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や、必要性があれば、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合うこともある。	○	1階でデイサービスを開設しているため、他のケアマネジャーや事業所との関わりがある。必要があれば、グループホームの利用者に関しても相談行う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの方を、勉強会に講師として招くなど日頃から関わりを持っている。必要があれば、相談行う。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を第一優先とし、かかりつけ病院を決定している。緊急搬送先についても同様である。病院受診の際には、情報提供書を提出し、より利用者の状態を理解していただけるよう努めている。希望があれば、家族同伴の受診も行っている。家族の希望や、必要があれば、医療機関の変更も検討していく。		

グループホームながよ ゆとりの家

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	それぞれの主治医には、認知症も含め、診察・治療を行っていただいている。また、より利用者の状態を理解していただけるよう、提供書には、利用者の日頃の様子も記入している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の状態に応じて、事業所内の看護師に相談行い、状態を診てアドバイスもらうこともある。	○	現在2階ユニットでは、看取りケアを行っている利用者があるため、週に1度、訪問看護を受けている。その方に関する助言にとどまらず、他利用者に関してもアドバイスをいただく事もある。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、介護サマリーを提供し利用者が適切な治療・介護を受けることが出来るよう支援している。入院中は、担当医や看護師と連携をとり、早期退院を目指している。職員も見舞いに行き、現状の把握に努めている。家族のサポートも心がけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2階ユニットでは、看取りケアを行っている利用者が1名いる。体方面や状態の重度化を総合的に判断し、運営者・管理者・リーダーと家族、医師・看護師で、今後の方針を話し合い、合意に至っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者がより良く生活出来るよう、また職員へ過度の負担がかからない様、「できること・できないこと」を見極めるよう努めている。利用者の状態によって、看取りケアを行うか、あるいは他機関の利用が適切なのか検討を重ねて判断することとしている。	○	<協力医療機関> 訪問診療 週1回 長崎百合野病院 中尾先生 訪問看護 週1回 訪問看護ステーションコスモス
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には、家族からの情報を基にケアを行い、徐々にグループホームでの生活に馴染んでいいただけるよう支援していく。また、退所の際には、入居中の生活情報など、様々な情報を新たな居所へ提供するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しての言葉かけや対応には、尊敬の気持ちをこめている。また、一人ひとりに合わせて方言を使うなど、利用者が心地の良い対応を心がけている。記録等の保管等、プライバシーの確保にも努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が意思を表すことが出来るよう、言葉かけや対応を工夫している。利用者の思いを職員が感じ取ることが出来るよう心がけている。利用者主体の暮らしを支援していく。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて援助を行うよう心がけている。例えば、食事や入浴の時間なども出来る限り本人の体調や希望に添えるよう援助を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者のひとは、入居前からの行きつけの美容室に通い、店員や親しい方との団欒の場となっている。また家族に美容師がおりホームで散髪してもらう利用者もいる。洋服は、出来る限り本人が着ていたものや、家族に好みものを持ってきていただいている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を出来る利用者は限られているが、野菜の皮むきや盛り付け等一緒にすることもある。また、食事のメニューは作るたびに職員が決めるため、利用者の要望に応え提供する事ができる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みに合わせ、お茶だけでなくコーヒーやヤクルトなども提供している。甘いものが好きな利用者が多く、饅頭やプリンなど用意している。	

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表を活用し、排泄パターンを把握する。定時でのトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を目指し支援している。オムツやパットは、一人ひとりに適したものを使用し、最小限にとどめる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月・水・金を入浴日としているが、体調をみてその他の日に入浴援助を行うこともある。入浴拒否のある利用者に対しては、時間帯やタイミング、声かけの内容など工夫をしており、気持ち良く入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体力や体調に応じて、適度な休息を促している。夜間、一人で眠ることの出来ない利用者には、リビングの畳に布団を敷き利用者が安心できるような声かけを行っている。また、冬場は湯たんぽや電気アンカを利用し、安眠へとつなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが喜びのある生活が送れるよう努めている。それぞれの力に合わせ、洗濯物をたたむ等、職員と共に家事を行なっている。また、音楽を聴いたりドライブに出かけるなど支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の利用者が多く、家族の了解を得て事務室にて金銭管理を行っている。利用者の中には、財布を持ち「何かあった時でもお金も持っている」という安心感を持っている方もいる。外出時や買い物など、希望に応じて使えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的とは言えないが、散歩やドライブ、買い物など外出の機会を設け、気分転換ができるよう心がけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事(花見・敬老会等)で、公園までのドライブや外食の機会を設けている。近くの店には事前に打合せに行き、キザミ食の提供や席の確保など協力を頂いている。また、家族とのドライブを楽しみにしている利用者もいる。家族の負担にならないよう調整を行っている。	○	ユニット9名の利用者の身体状態に差があるため、全員または複数での外出が困難となっている。一人ひとりの希望に合わせて、食事や買い物・見物に行くなど、さらに検討していきたい。

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ、家族等に電話をかけている。遠方の家族には定期的に電話をかけ、利用者と家族が会話できる機会を設けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者と家族・友人等がゆったりと過ごせるよう、居室にて過ごしていただいている。また、職員もコミュニケーションを図り馴染みの関係となれるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解をしている。また、身体拘束が利用者に与える影響(身体的・精神的)についても理解できるよう、職員間で話し合いを行い、拘束のない、よりよいケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は開放されている。帰宅願望や外出願望の強い利用者がいれば、出来る範囲で職員も一緒に外出し納得していただく。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーへの配慮は常に意識している。昼夜通して、利用者の所在や様子を把握し、職員間でも共有できるよう努めている。思わぬ事故や行動にも対応できるよう、利用者・リビング全体を視野に入れる心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の日常生活に必要なものは、職員が保管している。利用者一人ひとりの状態に応じて、持ち物や居室の環境作りを工夫している。薬や薬品等の管理については職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	起こり得るリスクについては、カンファレンスやミーティングにて常に話し合い、対応へとつなげている。また、服薬介助の際は、『名前・日付・服薬時間帯』を必ず確認し、誤薬防止に努めている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームの勉強会で、『救急時の対応』をテーマに取り上げている。心肺蘇生法や応急手当など全職員が適切に行えるよう、定期的に訓練する必要がある。また、救急時の通報のため、電話の近くに通報マニュアルと医療機関の連絡先を掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、全職員で消防・避難訓練を行っている。消火器の使用法・消防設備の理解・通報・避難経路等の確認を行っている。利用者を安全に避難させることが出来るよう努めている。	○	事業所全館にスプリンクラー設置した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、家族に説明を行っている。また、家族が面会に来られた時や、電話で利用者の日常を話す中で、利用者の状態を理解していただけるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック(血圧・体温・脈)を行い、利用者の状態把握に努めている。高血圧の利用者は、入浴前にもチェックしている。食事量や排泄・表情等にも変わりがないか、常に気を配る。普段と違う事柄は記録に残しておく。早めの対応を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のファイルに、服薬説明書を保管しており服薬の目的や効果の把握のため目を通すようにしている。また、薬の変更があった際は、全職員に『ホウ・レン・ソウメモ』で伝達し、利用者の変化等、様子観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、下剤の服用や坐薬を使用している。それに加え、水分補給を心がけている。各利用者、排泄管理表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導時は腹部マッサージ施行している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者自身でのケアが困難なため、職員が口腔ケアを行っている。義歯は毎晩はずしてもらい、ポリドントにて洗浄を行っている。また、舌ブラシを使用し舌苔の予防を心がけている。週1回、歯科往診を受けているため、異常があれば相談し適切な対応を心がけている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量の把握に努めている。また、10時と15時に水分・栄養補給を行っている。ミキサー食・キザミ食・とろみつきなど各利用者の状態に合わせて工夫をしている。食事が摂れない時には高カロリー栄養剤やホットミルク等提供している。脱水症状を起こさないよう水分補給に努めている。	○	嚥下障害の利用者に対して、かかりつけ病院の管理栄養士から定期的にアドバイスを頂いている。(食事量・水分摂取量など記録し提出している)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者・職員全員でインフルエンザの予防接種を受けている。また職員だけでなく、面会者にも手洗い・うがいを促している。また、感染症対策委員会を設置し、マニュアルを作成している。各ユニットで感染症対策セットを常備しており、ノロウイルスと疑われる状態が発生しても迅速に対応できるよう備えている。流行の時期は、予防のためマスクを着用し受診等を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・ふきんは毎日ハイター消毒を行っている。ガスコンロや調理台・床なども清潔に保つよう努めている。食材購入の際は、賞味期限や製造元等も考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関周りでは、プランター等を使用し季節の花々を育てている。また、1階のデイサービスセンターで作られた作品を、玄関やエレベーターに飾り温かい雰囲気作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や職員の声の大きさ・トーンなど、気を配っている。日光はカーテンを使用し、適度に取り入れている。花を生けたり、月々壁画を製作し、季節を感じてもらえるよう工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主に、食事をする空間とゆったり過ごす空間を作っている。冬は皆で集うことが出来ればと、コタツを置いている。廊下や壁際にも椅子を設置しており、休憩の場にもなっている。		

グループホームながよ ゆとりの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や状態に応じて、ベッドと布団を選んでいただいている。鏡台や机、テレビなど家から持ってきている物もそれぞれ、各居室が異なる雰囲気となっている。全室畳を敷いているため、家族も寛げる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝と午後の2回は全体の窓を開け、換気を心がけている。湿度計を設置し、季節に応じた適温を保っている。また、加湿器を利用し湿度にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは、玄関・トイレ・台所・居室すべてフラットな造りになっている。廊下やトイレ内にも手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのドアには『便所』と利用者に分かりやすくかいてある。また、洗面道具を置いてある棚にも名前を書いているため、声かけにて洗面道具を取り出す事ができる利用者もいる。各居室に表札を掲げている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階ユニットのベランダは、一般の方の通路にもなっている。夏場は窓を開放しているため、近所の方や散歩中の犬やネコとも触れ合う機会がある。利用者と洗濯物を干しに出ることもある。	○	プランターで、利用者と花を育てた事があるが、水やりを習慣化できなかった。季節により取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームながよ ゆとりの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2階ユニットでは看取りケアに取り組んでいる。医師や看護師から様々なアドバイスを受け、利用者が穏やかに過ごせるよう援助している。月に1度の勉強会では、利用者の事例検討や報告に加え、様々な分野の外部講師を招いたり救急時・火災時の対応など、幅広い知識を身に付けるよう事業所全体で取り組んでいる。

利用者だけではなく家族の存在も大切にし、利用者と家族・職員が互いに支えあい生活していく事を目指し日々取り組んでいる。